

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和元年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～3）
山頂及び山麓に設置した監視カメラでは、昭和4年火口の噴気は観測されませんでした。
- ・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図4）
火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動の状況（図5）
GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

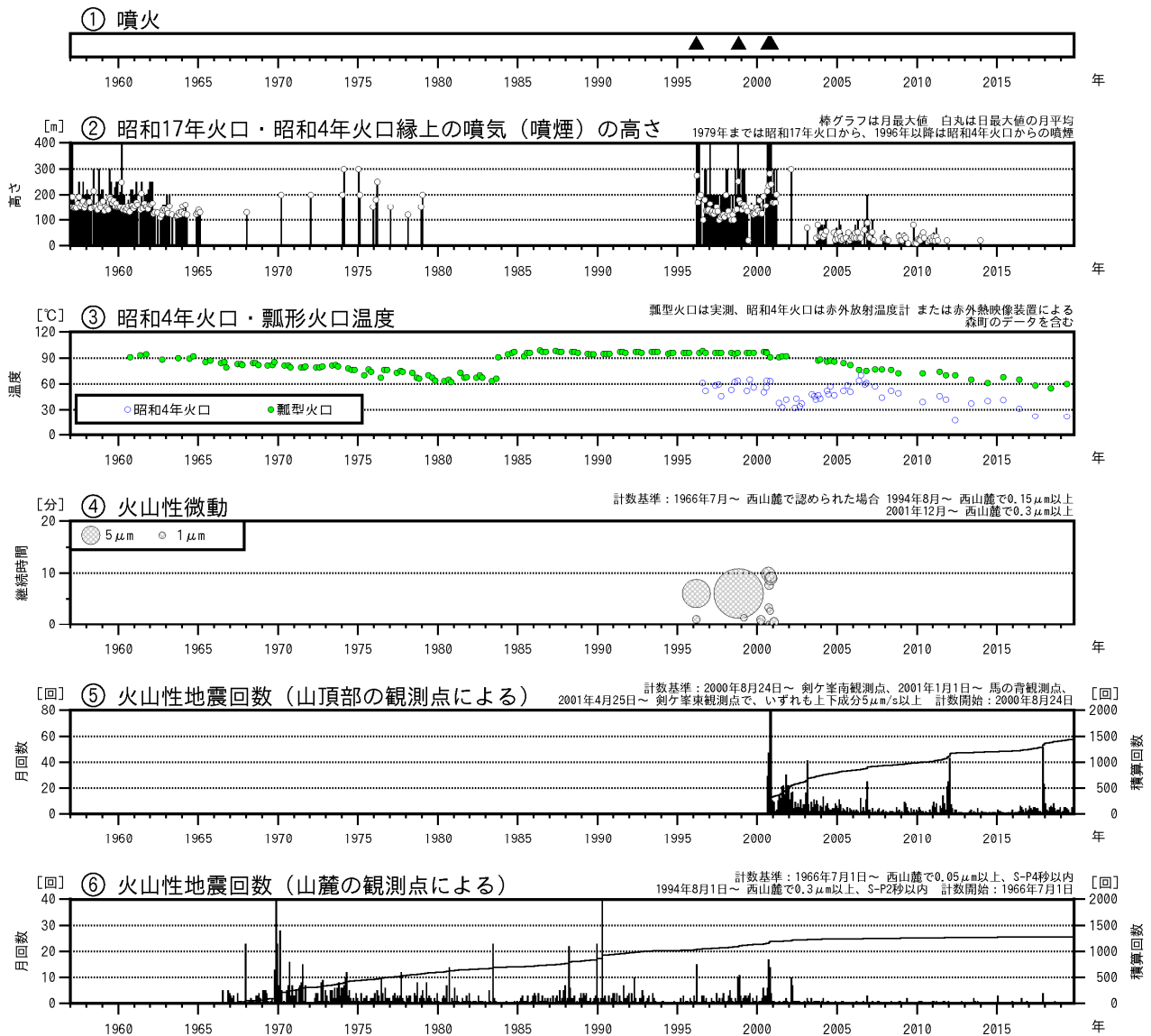


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2019年10月）



図2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図



図3 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況
(10月31日、剣ヶ峰監視カメラによる)

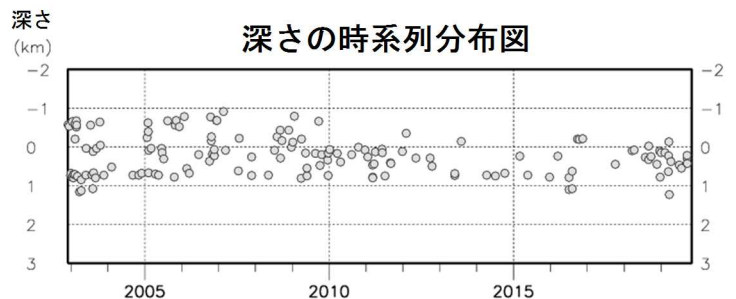
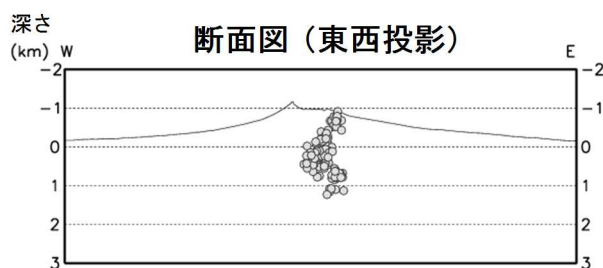
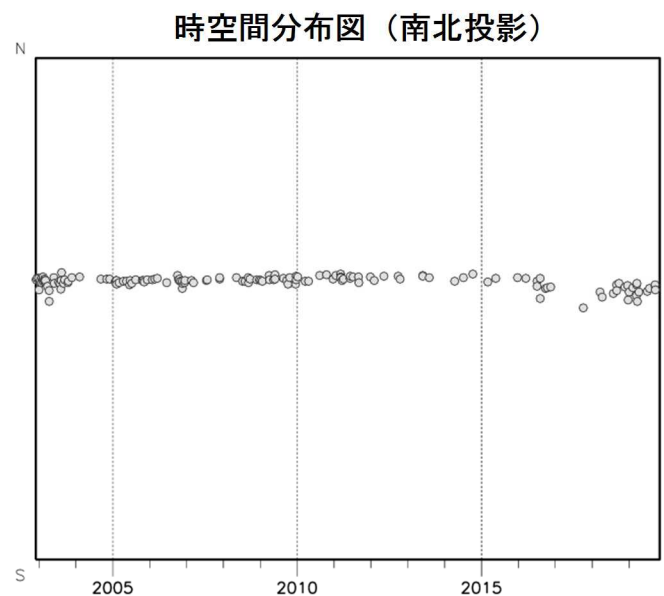
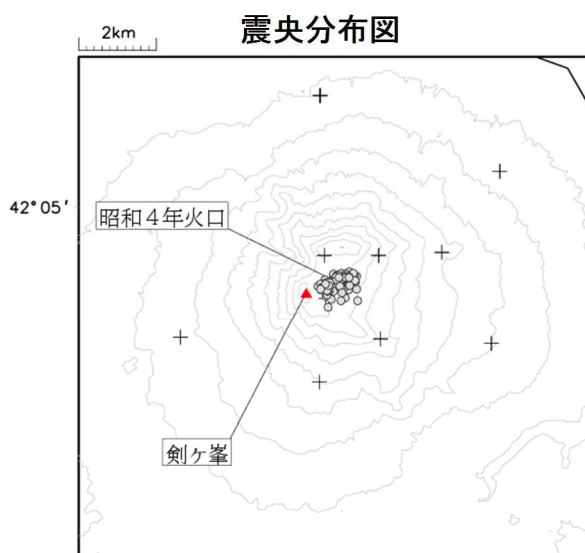


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2019年10月）

●印：2002年12月～2019年9月の震源 ●印：2019年10月の震源
+印：地震観測点

・今期間、震源が求まった地震はありませんでした。

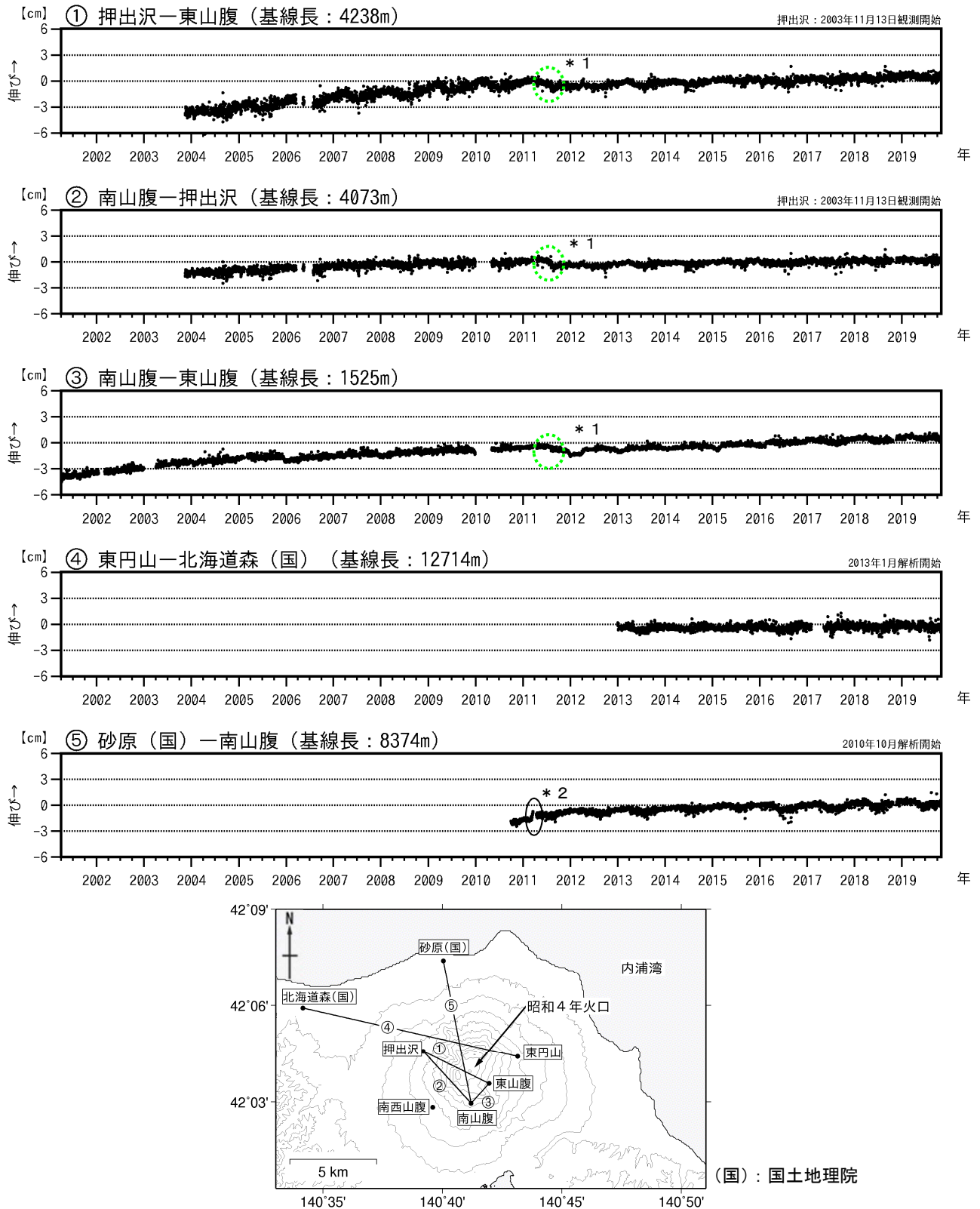


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2019年10月）及び観測点配置図
GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。
GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
①～③の緑点線円内の変動（＊1）は、機器更新によるものです。
⑤の黒点線円内の変動（＊2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

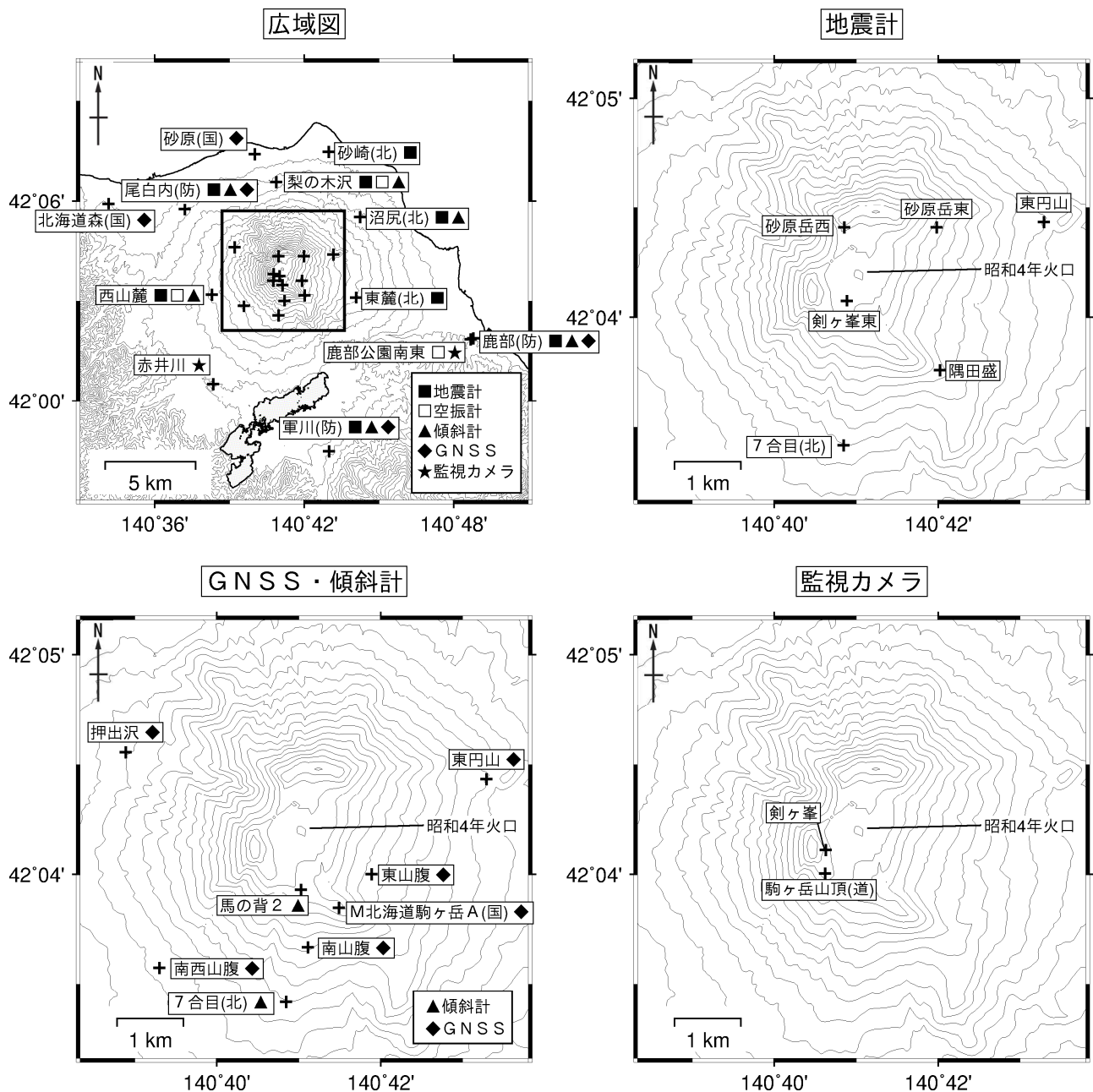


図6 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道